

広 報
溝部学園

別府溝部学園短期大学

- 別府溝部学園短期大学
- 大分県歯科技術専門学校
- 別府溝部学園高等学校
- 認定こども園ひめやま幼稚園
- ひらた保育園
- 寒田ひめやま保育園

祝 令和5年度（第59回）卒業式典

弓 道 部 第71回全日本学生弓道選手権大会出場
第67回西日本学生弓道選手権大会出場
第61回九州学生弓道選手権大会（女子個人入賞）
第59回九州学生弓道新人戦指宿大会（女子個人入賞）

その中でリンカーンが、ある時、同僚と喧嘩ばかりしている一人の青年将校をたしなめる話がある。「自己の向上心を心がけている者は喧嘩ばかりしている暇はないはずだ。おまけに喧嘩の結果不機嫌になったり自制心を失ったりすることをお考え、いよいよ喧嘩はできなくなるはずである。こちらに五分の理しかない場合には、どんな重大なことでも相手に譲るべきである。こちらに十分の理があると思われる場合でも

小さなことなら譲った方がいい。細道で犬に出会ったら権利を主張して噛みつかれるよりも、犬に道を譲った方が賢明である。たとえ犬を殺したとしても、噛まれた傷は治らないからである。」と。

つねに相手の意見や言葉に耳を傾け、相手の立場を相手と同様に理解できる者でありたいと思う。しかし、ふりかえってみると、議論に熱が入り、いつのまにか相手を論駁しようとしていた自分に気がつくことがある。相手は、論駁されて、心から非を認めたとしても、その事を快く思うことは少ない。従って、自分を論駁する人に好意を持つことは少ない。議論で勝つことも空しい。むしろ、議論や反論をしないことである。さらに、禅の言葉にも、同様な趣旨の言葉がある。「妥協しない生き方なんて、偉くもなければ、尊くもない。虎にもなり、猫にもなる生き方こそ最高のものだ。」という言葉である。我々は、社会で自分を認めてもらうために、

さようなら！

十年程前に十時間に及ぶ大手術をした時に、小・中・高の友達が見舞いに来てくれた。高校の友達は来てくれるかも分からないが、普通に考えて小学校の友達が来てくれることは先ずないであろう。これから巣立つ社会で受け入れてもらうためには私の人生哲学を是非、実行してほしい。諸君の大成を心より祈念してお祝いの言葉としたい。



学校法人 溝部学園理事長
別府溝部学園短期大学学長
溝 部 仁

リンカーンの 生き方に学ぶ

「留学生数136名・10か国」

2023年度秋、136名・10か国の外国人留学生が集う、国際色豊かなキャンパスとなった。ライフデザイン総合学科、介護福祉学科、食物栄養学科、幼児教育学科全ての学科に留学生達が所属し、それぞれの目標である進学、日本での就職など、夢に向かって、日々勉強に励み、専門性を高めている。特に、介護福祉学科には、介護福祉士として活躍したいミャンマーからの留学生の入学が続いている。

日本に來たばかりの時は、戸惑いがあり、ホームシックになった留学生達もいたが、日本での生活にもすぐ慣れて、キャンパスには、元気な笑顔と声が溢れた。

今年も多くが日本語能力試験N1、N2に合格し、日本留学試験でも高得点を獲得した。日本語能力試験のほか、本学の『あなたはこの資格のほかに何ができますか』を合言葉に、日本での就職のため、「特定技能ビザ」「宿泊」「外食」分野に挑戦、合格した。

今後も、本学で勉強した成果を資格取得、点数で出し、それぞれの夢に向かい、一歩ずつ着実に近づいてもらいたい。

また、中国大連の友好締結校や新しい学校との連携を深め、日本語や日本文化の授業を継続して開講している。

今後も、日本人、留学生の垣根をこえて、共に歩んでいきたい。



2019年12月に感染が確認された新型コロナウイルス感染症は全世界に広がりをみせ、私たちのこれまでの生活のあり方、生き方を大きく変えてきました。教育現場でも遠隔授業の実施、集団的行事の自粛、マスクの着用等学校における教育活動に大きな影響を与え、本来の姿とはかけ離れた活動を余儀なくされました。新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日をもって5類感染症に移行され、社会生活や学校生活も徐々に元に戻りつつありますが、まだまだ落ち着きを見せようとはしていません。

今年度はすべての学校・学園行事が、これまでに近い形で久しぶりに実施されました。スポーツ大会や学園祭は、学生の自主的・主体的な企画のもと、学科や学校種を超えて楽しい雰囲気の中で盛大に行われました。学生相互のコミュニケーションの活性化を、また、学園MIZOBEE

としての一体感の醸成を感じさせるものでありました。また、介護福祉学科の「ふくし・ふれ愛ひろば」、食物栄養学科の「Mizobee食のフェスタ」、幼児教育学科の「ミュージックカーニバル」、ライフデザイン学科の「ファッションショー」及び「卒業制作・学生作品展」は、すべてが学生の本気度が伝わってくる見応えのあるものでした。学生たちのやる気と先生方の懸命な指導とが一体となった、まさに教育活動であると思います。新型コロナウイルス感染症の拡大は今のところ収まりを見せようとはしていませんが、コロナ禍を通じてもたらされた社会の変化やそれに伴う課題は山積しています。また、令和6年1月1日の能登半島沖の大地震は、多くの人命や住居を奪いました。少子化や環境問題、自然災害等の地球規模での課題にどのように向き合っていけばいいのか。私たちが生きていくこれからの社会は厳しい状況が続くものと思われ、困難な時に思い起こしてほしいのが、溝部学園の創始者 溝部ミツエ先生の学校創設に対する熱意、challenge精神であります。

溝部ミツエ先生は、終戦後の混乱期に、戦争未亡人たちが生活できるように、「女子になんとかして生活のできる技術を身につけさせ、自主自活する女性を育成する」ことを目的に全財産をなげうち、別府高等技芸学校を自宅に開校されたそうです。戦後の困難な状況の中であって、弱い人のために資産をなげうちのchallenge精神で自分の信ずることに立ち向かう姿は、まさに子（学生）をおもう「学園の母」のものであります。昨年末に山口県の萩を訪問する機会を得ました。松陰神社の敷地内にある松下村塾の前に歌碑があり、次の歌が書かれていました。我が子を思う深い親心を歌ったものです。「親思ふこころにまさる親心けふの音つれ何とときくらむ」溝部学園の母なる創始者 溝部ミツエ先生の熱い想いを胸に、力強く進んでいきましょう。

一年を振り返って

学園創始者 溝部ミツエ先生の challenge精神に学ぶ

短期大学部長 眞部 健一

2023年度

介護福祉学科へミャンマーからの留学生来日

副学長・介護福祉学科 教授 溝部 佳子
国際交流課 課長 教授 松浦 倫子

令和5年度入学のミャンマーからの留学生12名が、4月11日（火）19時40分福岡空港に到着した。その後、双葉バス（車内にてコロナの抗原検査実施）にてインブルーム別府に向かい、宿泊した。

翌12日（水）学園のマイクロスバスにてミャンマーNLC校長ゆり先生と共に来学。その日は、介護福祉学科1・2年次生による歓迎会があった。1年次生にはミャンマーからの留学生10名、2年次生には8名在学しているの、彼らの活躍ぶりを見て新留学生



文化を学び、日本人高齢者の気持ちに寄り添うことのできる介護福祉士に成長していくことを期待する。

私たちは安心感を得たようであった。今回の12名は留学生コースの学生ばかりであった。2年次コースの学生2名は、後日、来日することになった。

本学の介護福祉学科で日本人の学生や他国の留学生と交流しながら、一番の来日目的である「世界」といわれる日本の「介護」を学ぶ」と共に、日本の素晴らしい伝統文化を学び、日本人高齢者の気持ちに寄り添うことのできる介護福祉士に成長していくことを期待する。

2023年度

第31回 日本介護福祉学会大会

「持続可能な社会に向けた介護福祉の挑戦ーテクノロジーの活用ー」

副学長・介護福祉学科 教授 溝部 佳子

2020年から続く新型コロナウイルスは、介護福祉や医療、保健の領域において多様な影響を与えたが、そのような中でも第一線で支援の必要に寄り添い、支えられている皆様に心より敬意を表します。

コロナ禍において、テクノロジーは加速し、介護の在り方に少なからず影響を与えている。本大会においては、「介護福祉」と「テクノロジー」を掛け合わせ、結びつけることによって、誰もがその人らしく、自立した生活を営むことができるように新たな介護福祉の可能性と介護福祉が持続可能な社会に向けて何をすべきかを考える。現在のテクノロジーの到達点、介護福祉

実践におけるICTの活用の実際、ICTに関する人材の育成などについて、講演やシンポジウム、研究発表、近畿地区公開講座とコラボレーションした企画などを通して知見を深める機会となることを願う。

（テーマ）持続可能な社会に向けた介護福祉の挑戦ーテクノロジーの活用ー

（日程）2023年9月10日（日）

（会場）大阪人間科学大学 WEB開催（主催）日本介護福祉学会・第31回日本介護福祉学会大会実行委員会（大会プログラム）

（開会式）

令和5年度全国教職員研修会

介護福祉士養成施設の存在意義の再検討ー介護福祉士の未来像を問うー

副学長・介護福祉学科 教授 溝部 佳子

現在、国内多くの介護福祉士養成施設が、ひいては介護福祉士養成施設協会そのものが存続の危機に直面しているという事実が異論の余地はない。

かつて2万人が在籍していた学生数はおよそ7千人にまで減少し、定員充足率の低下に歯止めがかけられない状況が続いて

おり、その事実は全国規模で進行する養成施設（課程）数の減少に直結している。その状況を少しでも緩和し学校運営を継続させるため、また、介護現場における人材不足解消の一助とするため、多くの養成施設にとって留学生の存在が欠かせなくなっており、全学生数の実に3分の1



【基調講演】

「ムービングショットプロジェクトと共創研究による自立支援の革新ーテクノロジー活用とICT人材育成の視点からー」

【日本介護福祉学会近畿地区公開講座企画】「作業療法の視点から考える介護事故軽減への挑戦」

①作業療法士による転倒事故を防ぐハビリティ視点…木下亮平氏（大阪人間科学大学保健医療学部作業療法学科講師）

②時間的制約を利用した事故予測対策（TP-KYIT）の紹介…有久勝彦氏（関西福祉科学大学保健医療学部リハビリテーション学科学准教授）

（ランチンセミナー）「エビデンスに基づく介護実践を目指す取り組みー眠りSCANを活用した施設と大学との協働ー」

【自由研究発表】「シンポジウム」テクノロジーを融合した介護福祉の深化に挑む」

【学会賞授賞式・総会】（開会式）

が共有する危機感なのではないのか。

（日程）2023年10月27日（金）

（方法）オンライン（ZOOMミーティング）

（主催）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

（主 管）日本介護福祉士養成施設協会

令和5年度 日本介護福祉士養成施設協会九州ブロック教員研修会

「介護福祉実践・教育のこれからを拓く」

副学長・介護福祉学科 教授 溝部 佳子

介護福祉士養成教育は、1988年の開始より35年余を経て、現在、さまざまな課題に直面している。また、ポストコロナに向けて、新たな歩みを始めようとしている時期である。

このような時期に、今一度今までの教育の歩みを振り返りながら、これからの介護福祉教育の未来を切り開いていくためには、何が求められているかについて、ともどもに議論を深めたいと考える。

（日程）2023年11月12日（日）

（方法）対面とオンラインを併用

（主催）日本介護福祉士養成施設協会

九州ブロック 日本介護福祉士養成施設協会 長 崎県実行委員会（担当校）長崎国際大学（大会プログラム）

（開会式）

【基調講演】「介護福祉実践・教育の本質とこれから」前広島国際大学教授・元日本介護福祉士養成施設協会理事 上原千寿子氏

（分科会）第一分科会…介護福祉実践の魅力とその広報、学生募集活動のあり

2023年度

第34回 日本福祉文化学会全国大会（東京大会）

「自分らしく生きる」を尊重しあう福祉文化の創造

副学長・介護福祉学科 教授 溝部 佳子

数年にわたって世界の人々を苦しめた新型コロナウイルスの感染も一段落、今回の日本福祉文化学会第34回全国大会「東京大会」は、たくさんの制約を受けた生活を越えた今だからこそということも考えて、もう一度「福祉文化」を問い直す意味で「自分らしく生きる」を尊重しあう福祉文化の創造」をテーマとして開催する。

（テーマ）自分らしく生きる、を尊重しあう福祉文化の創造

（日程）2023年12月10日（日）

（会場）立教大学・池袋キャンパス1号館

（主催）日本福祉文化学会・第34回日本福祉文化学会大会実行委員会

（大会プログラム）

【研究発表】

【開会式・福祉文化実践学会賞披露】

【基調シンポジウム】「自分らしく生きる」共感力でささえあう舞台があれば人は輝く」

コロナ禍の中で、様々な制限を受けることで「自分らしく生きる」ことが大きな制約を受けることになった。その中においても、「共感力」をもつてささえあうことで、生きづらさを克服し、「自分らしく生きる」ことを目指してきた3人のシンポジストに話を聴くことで、これからの時代にどのようなようにすれば、「自分らしく生きる」ことが、ひとつの

留学生ならではの教育の具体例を紹介し合う場にとしたいと考える。

第2分科会…ICT教育が育む介護の未来像

近年介護現場でICT技術の導入が進む中、最新技術の紹介に留まらず、共有したい教育理念と技術をいかに連動していくのかという視点を展開したいと考える。

第3分科会…養成施設の生き残り戦略

経営戦略に独自のノウハウを有する養成施設の実践例を紹介し合い、学生獲得につながる広報活動などのヒントを見いだす場にしたと考える。

【閉会式】閉会挨拶・次期開催地挨拶

方について

第二分科会…介護福祉人材教育としての留学生教育について

第三分科会…多様化する学生への支援について

【分科会報告とまとめ】

【閉会式】



文化として尊重されるのか、その方向性を探る。

【分科会】分科会①子ども・子ども食堂の実践を通して、

分科会②地域と児童文化「地域」とつながる保育士養成校の試み、

分科会③自分らしい終末期を迎えるということ

分科会④東日本大震災の伝承・復興から福祉文化を考える

【閉会式】



高難度試験合格と 情報処理検定5冠達成

ライフデザイン総合学科医療事務コース2年生の平本みなみさんが在学中に第58回診療報酬請求事務能力認定試験(試験地:九州大学伊都キャンパス、合格率:37.0%)に一度で合格した。診療報酬請求事務能力認定試験は、公益財団法人日本医療保険事務協会が実施しており、医療保険事務資格試験の最難関と言われている。4年制の医療経営・医療情報系の大学の中では、重要取得目標資格と位置付けている大学もある。その中で、短期大学の在学中に、一度で合格したことは快挙である。

また、日本情報処理検定協会主催の検定試験(試験地:本学)において、5種目で1級を取得し、会長賞を受賞した。令和5年度は全国で397名しか受賞できていない。(令和6年2月16日現在)

入学した令和4年から7月に文書デザイン検定試験で1級を取得すると、情報処理技能検定(表計算)、プレゼンテーション作成検定試験、ホームページ作成検定試験、情報処理技能検定(データベース)と次々に1級を取得していき、令和6年2月に5冠の達成ならびに会長賞の受賞となった。

平本さんは小学生の頃、病院で働くことに興味を持った。高校で商業科目の学習をし、パソコンを扱うことが得意になった。このスキルを病院で活かしたいと思い、将来医療事務として働くことをめざし、本学への進学を決めた。

就職は医療機関の事務系総合職に内定を得た。「来院した患者様に適切な治療が施されるような体制を整える仕事に尽力し、地域の皆様に貢献したい」と抱負を掲げ、現在も努力を続けている。今後は別府溝部学園短期大学で身に付けた技能を活かし、地域に貢献することが期待される。



ライフデザイン総合学科
医療事務コース2年
平本みなみさん

2023年11月5日大学コンソーシアムにおいて主催「OITA提言フェスタ留学生によるスピーチコンテスト」が開催され、介護福祉学科1年生のメイツウツカインさん(ミヤンマー)が「カタカコロコロのその奥へ」というテーマで高齢化社会について実体験を交えたスピーチを行い、最優秀賞を受賞しました。

また、11月14日、学校法人後藤学園楊志館高校主催「第20回外国人による日本語スピーチコンテスト」において、食物栄養学科2年デイチン・マドゥシャーニさんが優良賞を受賞し、食物栄養学科1年生トカ・ミランさんが、J・COM大分ケーブルテレビコム賞、ライフデザイン総合学科2年生ガレ・プラミラさんが読売新聞西部本社賞を受賞しました。

留学生意見交換会(弁論大会)



★留学生による
日本語スピーチ
コンテスト
結果報告★

一般社団法人日本調理科学会は、調理科学に携わる研究者、関連分野の研究者、教育者、技術者が参加して、調理に関する科学的研究の推進、その知識の普及を目的に活動を行っている。今年度大会は、対面開催となり、他県の調理科学を研究する先生と交流することができた。今回のテーマは、「おいしさの複雑さの解明と共創 持続可能な食を導く調理科学」であった。特別講演「近代料理書で読む日本の食卓150年史 明治・大正期を中心に」公開学術シンポジウム「調理過程で作り出されるおいしさの解明 多成分・多相構造への挑戦」公開学術講演「おいしさを引き出すコクの科学 調理過程におけるコクの生成機構と活用」教育講演「健康な社会を支える調理

一般社団法人日本調理科学会2023年度大会報告

会期:令和5年9月9日(土)・10日(日) 広島県立広島大学広島キャンパス 食物栄養学科 教授 望月 美左子



科学と食文化」が開催され、参加することができた。また、研究発表や、ポスターセッション、特別企画「多様な調理法と家庭料理の伝承」情報交換会にも参加することができ、有意義な2日間であった。

開学記念行事2023 新入生歓迎オリエンテーリング大会

令和5年4月20日(木)、開学記念行事として「スプリング・イン城島」と称し、城島高原パークへバス遠足を実施しました。当日は、高原バスで現地へ向かう学生やその車に乗り合わせて向かう者、また別府競輪場にて学園が手配したバスを利用して向かう学生とそれぞれの方法で現地へ向かいました。

現地では学生にフリーパスチケットと1,000円分のミールクーポンを配布し、10時の開門から15時まで各々の時間を過ごしていました。当日は天気も良く、気温も暖かい小春日和の過ぎやすい日でしたが、絶叫コースターの「ジュピター」や、水しぶき上げる「ボセイドン30」など大声を出しながら参加している姿が印象的でした。



開学記念行事を実施でき、入学した1年生と2年生の交流や、教員との関わりの中で良い思い出になったのではないだろうか。青春はまだ長い！短大生活を存分に楽しみたい！

別府溝部学園短期大学での思い出
ライフデザイン総合学科日本語コース イシカワ・サチャ・リエ
私は、ライフデザイン総合学科日本語コースのイシカワ・サチャ・リエと申します。フリーピンから参りました。別府溝部短期大学での思い出は、楽しいこと、友情、課外活動だけでなく、人生の興味を見つけた、より良い自分になる手助けしてくれたことです。別府溝部短期大学の留学生としての最初の数日間、授業は忘れられません。当時、私は初心者で日本語の知識もほぼゼロでした。そのせいで、コミュニケーションを取るのが怖く、私に話しかけようとする人から隠れてしまいがちでした。しかし、学習に対する見方が変わった、状況は一変しました。別府溝部短期大学の学習環境は、私たちの文化の違いを受け入れながら、学生たちの能力が向上できるように作られていることに気づきました。私たちは、日本文化への理解を深めたり、他国の人たちに自国の文化を紹介したりするなどの機会が与えられました。そのおかげで、学ぶことがより楽しく充実したものになり、忘れられない良い思い出で、胸がいっぱいになりました。私は別府溝部学園短期大学を卒業しても、日本語の勉強を続けて、どんなに大変でも立派な医師になって、日本で働けるように頑張ります。



食育推進事業「Mizobe食の継承運動」

～農業漁業体験・郷土料理を若い世代へ引継ぐために～

実施期間:2023年7月～2024年3月
対象:大分県(別府・杵築・中津)の若い世代

今年度は大分県の食育推進事業の一環として、本学では「Mizobe食の継承運動」を立ち上げ7月から翌年の3月末まで実施した。事業としての取組内容は、①地域における共食の場の提供(郷土料理や地産地消の学食ランチ、Mizobe食のフェスタ)②食文化の保護、継承や日本型食文化の実践のための取組支援(食育冊子配布・郷土おやつ提供として幼児・高校の食育、若い世代対象の地元食材使用及びお魚さばき講座)③農林漁業体験の機会の提供(日田地域の地産地消体験・梨狩り体験)とした。

国の食育推進基本計画では、若い世代の郷土料理や伝承料理を月1回以上食べるという割合が低下している。これは、若い世代が将来大人になった時に郷土料理や伝承料理を引き継いでもらえない確率が高まることを示す。これらのことから、食物栄養学科は食文化の継承や農業漁業や共食をする環境が重要であると捉え、本学のある亀川地域を拠点に関係する学生や幼児・小学生・高校生に向けて取組んだ。このような活動が、本学の学生や若い世代が将来大人になった時に、自主的に継承して行くことを願っている。参加した学生からは、「高校生や地域の方と交流ができて楽しかった」「大分県には色々な郷土料理があることを知った!」「久しぶりに郷土料理を食べた!」などの意見があった。



別府溝部学園短期大学 公開講座 オープンカリッジ2023実施

別府溝部学園短期大学ホームページから申し込みます [ぺっぴみぞべ](#) [検索](#)

本年度も、新型コロナウイルスの感染予防に留意しながら、本学が保有する専門的、総合的な教育・研究機能を地域社会に開放し、地域住民の生涯学習のニーズに応え、地域文化の向上に資することを目的として公開講座を件数を減らして実施しました。

開設された講座は、
別府溝部学園短期大学会場
1「魔法のパン屋さん」アンパンマンとカレーパンマンそして温泉プールで遊ぼうね！、2ハンドベル講座ー入門編ー、3ハンドベル講座ー経験者コースー、4世界へつながるシチトウイ七島いを編んでお部屋に飾ろう、5温泉学～別府温泉の魅力、温泉活用法を学ぶ～（正規授業の一般公開）食物栄養学科温泉コンシェルジュコース、6地域固有の環境要素の発見（正規授業の一般公開）食物栄養学科温泉コンシェルジュコース、7英語で詩を読んでみよう！～シェイクスピアの世界～入門編、8温泉文化と活用（正規授業の一般公開）食物栄養学科温泉コンシェルジュコース、9大分学～おんせん県おおいたをまるごと学ぼう～（正規授業の一般公開）食物栄養学科温泉コンシェルジュコース、10菓草料理マイスター養成講座、11MIZOBE食の継承運動2023郷土料理を探ろう、12食のSDGsを考えよう大分県産食材秋の味覚をたのしもう！、13MIZOBE食の継承運動2023おせち料理を一緒に作りませんか？、14推し活！推し色でつくるポーチ作り、15MIZOBE食の継承運動2023お魚さばき講座、16ココロもはっぴい～♥カラフル料理～地元のお野菜で元氣な“からだ”作り～
J:COMホルトホール大分
1フラワーアレンジ、2アングーマネジメント講座、3スタイルアップ理論を学ぶ骨格診断講座
参加者は幼児から高齢者まで、幅広い年齢層で延べ404名に達し、和氣あいあいの中、有意義な時間を共有していました。



第18回 読書感想文コンクール

「芥川龍之介の小説『鼻』は、傍観者の利己主義と、近代人の過剰な自意識の愚かさを描いたものと言われますが、読み終えて私が感じたのは、」

第18回読書感想文コンクールで、最優秀を受賞した迫田有美さんの書き出しの部分です。取り上げた作品の一般的な評価を述べたうえで、筆者自身の作品の読後の感想が展開されていきます。

近代以降の文学作品において評価が定着したものについては、その作品を取り上げることがある意味で勇気のいることかもしれません。しかし、作者に個性があるように読者にもその読者なりの取り上げ方や問題意識の在り方があるものです。

「読書感想文」として求められるのは、作品を読んで何に心動かされたのか、その感動を正確に読む人に伝えることができていくか。さらにそれを伝えるために必要な本文の引用が適切に過不足なくなされているか、その本の内容がこれからの自分にどう関わっていくかということなどが述べられていることなのです。同時に、文章作成上の基本を踏まえて、文体の工夫であるとか、構成の巧みさなども要素とみなされます。推敲の必要も当然求められます。その意味では、今回の応募作品には少し物足りない部分も感じられました。とはいえ、全学科にわたって多くの感想文が寄せられたことに感謝を致します。今後ともに読書を通して多くの友と語り合い自らの成長を図っていただくことが願いです。

【読書感想文の部】

最優秀賞

迫田 有美（ライフ1年）

「鼻」を読んで

優秀賞

射場 萌子（食物1年）

「あした死ぬかもよ？」を読んで

阿南 来夢（幼教2年）

「昔話法廷」を読んで

甲斐龍之介（介護2年）

「君の脾臓をたべたい」を読んで

佳作

安達 幸輝（ライフ1年）

「火花」を読んで

工藤 恋（ライフ1年）

「幸せになるには」を読んで

園 ひなの（ライフ1年）

「人間失格」を読んで

阿部 祐奈（幼教2年）

「さみにあがりとうのおくりもの」を読んで

森崎 美恵（介護2年）

「君たちはどう生きるか」を読んで

【ポスターデザインの部】

最優秀賞

末野 亜依（ライフ2年）

注（ライフデザイン総合学科・食物栄養学科・幼児教育学科・介護福祉学科）

ライフデザイン総合学科・食物栄養学科 幼児教育学科・介護福祉学科 4学科合同就職ガイダンス

～令和5年度就職支援課年間計画～

【就職ガイダンス】

第一回 就職ガイダンス

「就活に必要な書類の説明・履歴書の書き方等」

ライフデザイン総合学科、食物栄養学科、幼児教育学科、介護福祉学科2年次生対象

講師／各学科ごと

日時／令和5年4月3日（月）

第二回 就職ガイダンス

「論文文」

ライフデザイン総合学科、食物栄養学科、幼児教育学科、介護福祉学科2年次生対象

講師／各学科ごと

日時／令和5年4月4日（火）

第三回 就職ガイダンス

「就活に必要なマナー講座」

ライフデザイン総合学科、食物栄養学科、幼児教育学科、介護福祉学科2年次生対象

講師／各学科ごと

日時／令和5年5月20日（土）

第四回 就職ガイダンス

「就活のための論文の書き方（自己PR・志望動機等）」

ライフデザイン総合学科、食物栄養学科、介護福祉学科の各2年次生対象

講師／O1キャリアガイダンスセンター

田和瀬修 先生

日時／令和5年7月1日（土）

第五回 就職ガイダンス

「就活のための正しい着こなし・身だしなみ」

ライフデザイン総合学科、食物栄養学科、介護福祉学科の各1年次生対象

講師／紳士服の青山

日時／令和5年10月7日（土）

第六回 就職ガイダンス

「就職活動のノウハウを学びましよう」

ライフデザイン総合学科、食物栄養学科、介護福祉学科の各1年次生対象

講師／各学科ごと

日時／令和5年12月9日（土）

第七回 就職ガイダンス

「性格検査・一般常識テスト」

ライフデザイン総合学科、食物栄養学科、幼児教育学科、介護福祉学科の各1年次生対象

講師／各学科ごと

日時／令和6年2月

キャリア教育講座

～学生のための教養講座～

【ライフデザイン総合学科】

「ファッションライダールコース」

第一回 キャリア教育講座

「ファッション販売のノウハウを学びましよう」

講師／株式会社 ワールドパートナーズ

日時／令和5年6月28日（水）

会場／別府溝部学園短期大学 2号館2階

第二回 キャリア教育講座

「ファッションライダールコース1・2年次生対象」

講師／ファイブフォックス 人事部九州中国担当

日時／令和5年8月2日（水）

会場／別府溝部学園短期大学 本館2階124教室

第三回 キャリア教育講座

「アパレル・ブライダルの就活について」

日時／令和5年12月15日（金）

講師／キャリア形成学び直し支援センター

本原 恵美先生

会場／別府溝部学園短期大学 本館2階123教室

「グラフィックデザインコース」

第一回 キャリア教育講座

「グラフィックデザインコース インタラクションシップ報告会」

日時／令和5年10月11日（水）

会場／記念館3階 マルチメディア教室

「医療事務コース」

第一回 キャリア教育講座

「医療事務の仕事について」

講師／社会医療法人恵愛会 大分中村病院

医療事務 後藤 遥香様（卒業生）

社会医療法人 鼎蔵会 みえ病院

医療事務 工藤 万代様（卒業生）

日時／令和5年7月22日（土）

会場／別府溝部学園短期大学 本館124教室



【食物栄養学科】

第一回 キャリア教育講座

「先輩から学ぶ栄養士のお仕事」

講師／保育園栄養士 平山 美織様（卒業生）

学校給食栄養士 甲斐 悠太様（卒業生）

病院栄養士 染矢 沙希様（卒業生）

高齢者施設栄養士 出口 亜祐美様（卒業生）

日時／令和5年10月7日（土）

会場／別府溝部学園短期大学 本館123教室

第二回 キャリア教育講座

「給食管理実習 学外実習報告会」

日時／令和5年10月14日（土）

会場／別府溝部学園短期大学 本館階段教室

第三回 キャリア教育講座

「日清医療食品（株）会社説明会」

参加企業／日清医療食品株式会社 南九州支店

キャリア開発マネージャー 横山 真純 先生

日時／令和6年2月14日（水）

会場／別府溝部学園短期大学 87年館



【幼児教育学科】

第一回 キャリア教育講座

「異年齢保育の実践と保育者の関わり」

講師／社会福祉法人 森友会 よいこの森こども園

採用担当 池辺 伸一様

主幹保育教諭 村松 優奈様

山崎 誌臣様

日時／令和5年6月12日（月）

会場／別府溝部学園短期大学 本館125教室

第二回 キャリア教育講座

「医療機関での療育の実践と保育者の役割Ⅰ（親子通園施設）」

講師／別府発達医療センター（幼児教育学科2年次生対象）

ひばり園 園長 阿部 奈美様

日時／令和5年6月29日（木）

会場／別府溝部学園短期大学 本館125教室

第三回 キャリア教育講座

「医療機関での療育の実践と保育者の役割Ⅱ（入所施設）」

講師／別府発達医療センター 療育部

整肢園 課長 宮本 真美様

日時／令和5年7月13日（木）

会場／別府溝部学園短期大学 本館125教室

第四回 キャリア教育講座

「保育園におけるコーナー保育の実践」

講師／学校法人道徳学園 わくわくの森保育園

主任保育士 末松 優季様

保育士 乙女 百花様

日時／令和6年1月17日（水）

会場／別府溝部学園短期大学 本館階段教室

第五回 キャリア教育講座

「幼稚園教諭の役割と指導実践」

講師／大分県私立幼稚園連合会

なごさ幼稚園園長 藤垣 勝志様

めぐみ幼稚園園長 奥村 みはる様

めぐみ幼稚園保育教諭 高橋 舞子様

日時／令和6年1月26日（金）

会場／別府溝部学園短期大学 本館階段教室

第二回 キャリア教育講座

「介護・福祉用具研修会」

日時／令和5年11月1日（土）

会場／大分県社会福祉財団 別府介護研修センター

第三回 キャリア教育講座

「大分県高齢者福祉施設等実践研究大会」

日時／令和5年11月20日（月）

会場／レインプラントホテル大分



弓 道 部



学 び

主 将 米加田 歩楓

くださった方々に厚く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私は中学生から弓道を始めました。今回縁があり別府溝部学園の弓道部に入学することになりました。この貴重な2年間で多くのことを学ぶことができました。

まずは、今の自分があるのは周りの人達の支えがあってこそだということです。何をするにも一人だけの力では成しとげることができません。間近でいつも支えてくださった顧問の先生、共に練習に励み戦った仲間から感謝しています。

次に信頼です。提出物だったり集合時間などあたり前のことはあたり前にしなければ最低限の信頼関係は築くことができます。自分ではぎりぎりに行動することがあり、まだまだ改善しなければいけないことが多くあります。四月からは社会人となり信頼を築くことは今よりも難しくなってきます。

その中でも努力し、コミュニケーションを積極的にとりながら築いていきたいなと思います。ここには書ききれない程多くのことを学ぶことができこの学校にきて良かったなと思いました。この2年間で支えて



「Oita AI Challenge 2024」APC 賞を獲得

本選日時：2024年1月27日(土) 13:00～17:00

会 場：大分市東春日町1番1号Ns大分ビル2階 アイネス大会議室

食物栄養学科 保育健康コース2年 谷口結愛さん・津々見真里さん・船山希美さん

大分県内の企業、団体、学生、個人を対象に「Oita AI Challenge 2024 (主催…おいたAIテクノロジーセンター 大分県、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所)」が開催された。日々発展するAI技術の中で、AIテクノロジーを取り入れたAIビジネスアイデア・ビジネスモデルを考案していく。新規性・成長性・実現可能性などを審査基準とし、学生7チーム、一般企業や個人など6チーム、計13チームが本選に出場した。

本学からも代表チームとして、食物栄養学科保育健康コース2年谷口結愛さん、津々見真里さん、船山希美さんが出場した。タイトルは「フードロス対策をみずえたレシビAI」モヤっとしないレシビAI「クッキングAIちゃん」そして、時間に追われる現状の中で、AIでの時間の創出やフードロス対策、料理することのハードルを下げることを目的とした内容であった。

本学の代表チームは学生賞にあたるAPC賞と副賞として開発支援金5万円とAIミネルバExpert (AI教育パッケージ) 1名分の受講料無料(3ヶ月分)を受賞した。津々見真里さんからは「仲間とともに「チーム食米」を結成して試行錯誤の末、受賞することができました。これも先生方、メンターの方、そして仲間の存在があったからこそ結果です。最高の思い出と実績を手に入れました。ありがとうございます。」とのコメントがあり、株式会社APC後藤喜博氏からは「自分たちが置かれている困難な現状を、AIを使用して解決しようとする現実的なテーマがイメージしやすく、学生らしいプレゼンが清々しかった」との講評をいただいた。

3名は栄養士や栄養教諭、地域支援員としての就職が決まっており、今後の活躍が期待されている。



ハンドベル部年間活動報告

顧問 山香 陽子

今年度は、地域の方々に演奏を聴いていただく機会に恵まれました。まず12月に行われた野田地区主催の「野田羽室御霊社秋の大祭2023」、理事長先生や野田地区の皆様の前で披露することができました。大分朝日放送主催の「OABマルシェ」では、演奏と合わせて楽器のふれあい体験を企画し、ベルの持つ魅力や演奏する楽しさをこどもたちへ伝えてまいりました。また、別府けいりんで開催された「オランダ王国友好杯」にもお声掛けいただきました。

卒業生OGによるハンドベルリンガーズは、今年も大塚先生御指導のもと練習を積み、グランツ竹田キナーレでの瀧廉太郎会主催「クリスマス音楽会」にお招きいただき、多くの皆様に天使のハーモニーを届けてまいりました。

今後は、在校生と卒業生の繋がりをより深め、継続してハンドベルの音色をお届けできるよう、力を尽くしてまいります。ありがとうございました。



Mizobe食のフェスタ 第1回 ~食べよう!大分のめぐみ~

令和5年11月23日(木)、記念すべき第1回を実施した。本イベントは、大分県産食材の普及啓発および、食や健康についての知識習得を目的とし、大分県と連携した食育推進事業の一環として助成を受け実施した。

当日は快晴となり、県内高校生や地域の方、学内関係者合わせて141名が参加した。参加者には、学生がレシピ考案し試作を重ねた食事を調理し提供した。「フード」は、肉巻きおにぎり&ミネストローネ(日出ポーク使用)、ジビライス(大分県産猪肉使用)、オムそば(鈴木養鶏場卵使用)から1種、「ドリンク」はかぼピス(豊後大野産かぼすパウダー使用)、HOTジンジャードリンク(大分県産有機生姜粉末使用)から1種、「デザート」の和風パフェ(甘太くん・みどり牛乳使用)はトッピングを選択でき、選べる楽しさも感じられるよう工夫した。さらに、別府溝部学園高校の生徒や、本学学生手作りの焼菓子も販売した。

また、「美活バランスラボ〜キラキラな毎日を!!〜」と題した健康ブースでは、大分県栄養士会様ご協力のもと、食品サンプルを組み合わせて栄養量を確認できる食育SATシステムを用いて、日頃の栄養バランスをチェックできるブースを設けた。塩分チェックコーナーでは、別府市ヘルスメイト様ご協力のもと、インスタントみそ汁と天然だしのみそ汁の塩分濃度の比較を行った。

ステージでは、司会進行の学生が場を盛り上げ、じゃんけん大会や野菜の重さ当てクイズを行い、多くの方が気軽に楽しく参加できる時間となった。

「Mizobe食のフェスタ」を通じて、「大分のめぐみ」を感じていただくとともに、普段の食生活を見直す一助となれば幸いである。次回は今回以上に、学生のアイデアが光るイベントに発展させたい。関係いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。



スポーツ大会

令和5年10月27日金曜日、本学園のグラウンドにおいて『令和5年度 短大・歯科合同スポーツ大会』が実施されました。新型コロナウイルス感染症が第五類へ移行し、制限が緩和され実施できました。

本学園のグラウンドでスポーツ大会を実施するのは、初めての試みであり、姫山会役員を中心に全員が楽しめるように日々話し合を重ね、短い時間の中で種目内容や環境整備に努めていました。

当日、心配だった天候も崩れることなく実施できました。「8の字」「大縄」「しっぽとり」「綱引き」「玉入れ」「リレー」「障害物パン食い借り物リレー」の7種目が行われ、盛込に盛り上がり、学科を超えた交流ができたのではないのでしょうか。各種目入賞した学科・学年は以下の通りです。

【8の字】

1位 ライフデザイン総合学科1、2年生

【大縄】

1位 幼児教育学科2年生

【しっぽとり】

1位 介護福祉学科1、2年生

【綱引き】

1位 留学生1年生

【玉入れ】

1位 留学生1、2年生

【リレー】

1位 食物栄養学科
幼児教育学科



59th FASHION SHOW



令和6年2月16日(金) (18:00~19:30) ライフデザイン総合学科ファッションブランドコースの学生達によるファッションショーが、大分市のJ・COMホルツホール大分・小ホールで開催されました。学生が一人一人の個性を生かした作品にしようと考えられた、着物コーデやカジュアルな作品・リメイクファッション、フォーマルドレス等を披露しました。デザインから縫製、ウォーキングレッスンやメイク、ヘアスタイル、BGMまで、トータルコーディネートされた自作自演のファッションショーでした。

閃き、創造力そして仲間との協調性を大切に助け合いながら今日まで取り組み、各自のインスピレーションからデザインし制作した作品の数々は、本日ファッションショーとして開花しました。

会場はコロナ禍にも関わらず、県内の高校生や就職先の関係者の方々、保護者の方々、卒業生等の観客で埋め尽くされ、大盛況でした。

不安と緊張で一杯だった学生達でしたが、斬新なファッションでランウェイでポーズを決めていく姿に胸が熱くなりました。



第42回 モンジャカニバル



第42回記念公演を12月7日(木) 別府ビーコンプラザ、19日(火) J・COMホルツホール大分にて開催することができました。今年は、2年ぶりに完全予約制を撤廃しコロナ禍以前と同様に地域に住む親子の当日観覧を行い、1908名の地域の方々にご来場いただきました。

プロローグとして、観覧時の感染予防行動をお願いするアニメーションを上映しました。続いて、1、2年次生全員でソーラン節を和太鼓も取り入れ披露し、本公演のメイキング動画を上映、オリジナルマスコットキャラクターによる幕間と繋ぎました。

1年次生演目「おおいの地獄っちゃんちよん」では、フィールドワークを行い、地域の魅力を伝えられるよう模索しながら創作しました。休憩時間には、有志によるハンドベル演奏を行い、2年次生演目「美女と野獣」真実の愛と魔法」では、演技や歌唱、背景幕などの大道具、小道具、衣装を制作披露し、災害が多い今だからこそ、自分にはないものを愛する大切さを表現しました。実行委員長からの挨拶後、エンディング「スマイル〜キラキラ輝く明日へ〜」を合唱し、子ども達に「早いクリスマスプレゼント」を届けることができました。



介護人材育成と地域貢献を目的として、介護福祉学科発足当初より取り組んでいる「ふくし・ふれ愛ひろば」を今年も開催しました。県内の高校生を対象とした「溝部学園 ふくし・ふれ愛ひろば」と地域の高齢者を対象とした「溝部学園 地域・ふれ愛ひろば」を2回開催した。参加した高校生や地域の方に、介護の素晴らしさや食生活の重要性について披露した。

1回目 「溝部学園 ふくし・ふれ愛ひろば」
 (日時) 令和5年11月11日(土) 午前10時~14時
 (場所) 福祉介護棟 1階実習室
 (対象者) 高校生16名 留学生15名 卒業生4名 学内関係者16名

2回目 「溝部学園 地域・ふれ愛ひろば」
 (日時) 令和5年11月18日(土) 午前9時~13時
 (場所) 福祉介護棟 1階実習室
 (対象者) 野田地区・野田老人クラブ花の会38名 卒業生3名 学内関係者16名

〈内容〉
 テーマを「ほんわか介護くん」と決め、「ほんとうにわかって介護」の必要性を視覚・聴覚に訴えた。オープニングは学生と教員による大正琴演奏から始まり、統括・劇・レクリエーション・食事班に学生が分かれ、各班ともに福祉・介護の魅力を伝えた。また、興味・関心が湧くよう、参加者自ら体験できる企画を盛り込んだ。そして、対象者の特性に合わせた内容とするために、学生が自主的・主体的に取り組んだ。

参加した高校生からは「楽しかった」「良い思い出になった」等の声が聞かれ、地域の方からは「楽しかった」「ありがとう」等の声があった。1・2年次生協働で一つの大きな行事を成し遂げることができた。このことは学生たちにとって貴重な経験となり、今後の学生自身の成長や自信へと繋がるのではないかと考える。



令和5年度 介護福祉学科 ふくし・ふれ愛ひろば 地域・ふれ愛ひろば



ライフデザイン総合学科 学外研修

2023年10月21日(土)

場所：キナナルシティ劇場(福岡市)

令和5年度の学外研修は、ミュージカル「ロミオとジュリエット」を福岡市博多区のキナナルシティ劇場で観覧しました。

ライフデザイン総合学科1・2年生(ファッションプライダルコース・グラフィックデザインコース・医療事務コース)の学外研修は、コースや学年、学生や教員関係なく親睦を深めると共に、様々な研修から受ける感性の向上や情操の教育、共感する力や社会性が育まれることを願って毎年実施しています。ロミオとジュリエットは、1595年にウィリアム・シェイクスピアによって書かれた恋愛悲劇で、舞踏会で偶然出会った敵対する名家同士がロミオとジュリエットが互いの想いを知らずして愛を深めていくが、様々なすれ違いから双方とも相手を想いながら死んでしまうという内容のミュージカルでした。日常風景や相手の屋敷に忍び込んで愛を深める語らい、迫力のある決闘シーンや最後は悲劇の連続という怒涛の展開と驚愕の結末、拍手とスタンディングオベーションで研修が終了しました。ミュージカルを初めて鑑賞した学生も多く、生の歌声と演技・舞台セットや衣装など、各々が様々な視点で刺激を受けました。



ミュージカル「ロミオとジュリエット」の研修風景

食物栄養学科 学外研修

地域の見学体験ツアー及び給食実習座談会 4年ぶり鯛生スポーツセンターでキャプファイヤー!!

2023年9月28日(木)～29日(金) 場所：日田・湯布院・塚原

昨年よりコロナ禍の影響が緩和されつつある中で、学外への研修を再開した。今年度の学外研修では、新型コロナウイルス感染症が5月8日に5類に移行してから様々な活動が以前の状態に戻ってきたこともあり、食物栄養学科では日田の宿泊施設(鯛生スポーツセンター)を拠点に日田・由布・塚原での見学・体験研修を計画した。

まず1日目は「六次産業」「醸造」「給食実習報告」を実施。梅加工等の六次産業で有名な日田市大山町の地元食材料理を堪能し、農家と産業を結びつけた秘策やその裏にある苦労話を伺うことができた。次に、日本4大ビール会社の一つであるサッポロビール工場に向かい、醸造・醸酵を学んだ。この日の終着点でもある鯛生スポーツセンターでは、給食学外実習を体験した2年生から1年生へ報告が行われ、研修の大きな目的の1つを果たした。夕食では、BBQ・花火とキャプファイヤーを楽しみ、異学年と教員の親睦をもつことができた。

2日目は「農業体験」「観光」「温泉」の学びを行った。梨農園では、栽培方法の学習・梨狩り体験を行なった。学生は大きな梨を傷つけないように採るのに必死(笑)の様子だった。次に、湯の坪街道(湯布院)を自由散策し、観光を学んだ。最後は、温泉の学びとなる

活火山「伽藍岳」の火口を見学し、温泉の成り立ちを考え、温泉蒸気で蒸せられた「真つ黒の温泉卵」を食べ帰路に着いた。

今回の学外研修では、学科の目的である「親睦」「絆」「地域の特色や産業や文化にふれる」を行動制限なく楽しく学べたことを嬉しく思う。

今年度の学外研修では、学科の目的である「親睦」「絆」「地域の特色や産業や文化にふれる」を行動制限なく楽しく学べたことを嬉しく思う。

今年度の学外研修では、学科の目的である「親睦」「絆」「地域の特色や産業や文化にふれる」を行動制限なく楽しく学べたことを嬉しく思う。

留学生学外研修

2023年11月23日(木)

場所：九重町&野外劇場TAOの丘

令和5年度留学生学外研修として、留学生105名と教員で九重町と野外劇場TAOの丘に行きました。9月に新入生23名を迎えての学外研修だったため、1年生・2年生そして教員との交流を目的に、まず最初に、木々が色づき始めた「九重夢大吊橋」に行きました。その後「くじゅう やまなみ牧場」で昼食をとりました。そして、午後は「野外劇場TAOの丘」にて、DRUM TAOのパフォーマンスを観劇しました。雄大な阿蘇山をバックに和楽器を演奏する姿に留学生たちも釘付けのようでした!

演奏の途中には和太鼓体験もでき、ステージに上がって演奏を楽しむこともできました!

今回の学外研修を通して、留学生と教員の交流が深まり、互いの文化や生活について理解が深まりました。また、九重町の自然や文化についても学ぶことができました。

今回の学外研修を通して、留学生と教員の交流が深まり、互いの文化や生活について理解が深まりました。また、九重町の自然や文化についても学ぶことができました。

今回の学外研修を通して、留学生と教員の交流が深まり、互いの文化や生活について理解が深まりました。また、九重町の自然や文化についても学ぶことができました。

卒業研究報告 2年間の成果

【食物栄養学科】

1 「食」への意識付けをどう図るか
「親子クッキング教室」の開催を通して

(研究者) 谷口 結愛・津々見真里
健康な食生活を妨げている要因を理解し、料理する抵抗感や苦勞を軽減する手立てを講じることに「食」本来の意義付けができたのではないかと考えた。そこで親子で調理する体験を通して「食」に対する意識の変容を試みた。

2 中高生フリースタイルへの「補食」の提案
(研究者) 首藤 里徳・薬師寺由衣
スポーツと栄養は切り離せない関係であり、成長期アスリートに健康的な身体づくり・パフォーマンスの向上を目的に提案指導を行った。別府市内の中高生フリースタイルが「補食の重要性」を知るきっかけとなった。

3 行政との食育推進の協働
(研究者) 中西 夏来
中津市と協働して高校生に食育イベントを企画・実施し、参加者の食意欲を向上させた。本活動を通じて中津市は来年度の高校生への食育を継続することが決まり、地域の食育に貢献できた。

4 地域食材であるオリブとベリーツのレシピ開発・魅力発見
(研究者) 小嶋 彩・後藤 基成
大分県の県産食材である国東オリブと大分県産のベリーツを開発し「ベリーツ」を使い、レシピ開発や販売、情報発信を行うことで多くの方に魅力が伝わることを目指した。

5 ジビエの普及に向けたレシピ検討
(研究者) 川津 哲朗・衛藤 未空
日田ジビエ工房の見学・インタビューと、ジビエの特徴調査を元に、ジビエを使用した13種類のレシピを試作検討した。またイベントでジビエを用いた料理を提供し嗜好調査や普及活動を行った。

6 料理に添えて用いるための「チョココレ」使用の検討
(研究者) 瑞那 瑞那
カカオ分95%の高カカオチョココレットを使って料理用のソースを作った。高カカオチョココレットは抗酸化作用があり健康によいため、食事で摂取すると病気の予防や美肌効果が期待できると分かった。

7 すりおろし「甘太くん」を利用した地獄蒸し料理のレシピ開発
(研究者) 島田 結衣
大分県産のブランド結衣も「甘太くん」をすりおろし砂糖の代用として地獄蒸し料理を作り、レシピを冊子にまとめた。甘太くんの糖分を活かしているの、すっきりした甘味でヘルシーな料理に仕上がった。

8 亀川の地域活性化に向けて
亀川の子茶屋と亀の甲公園の公民館

(研究者) 山本 彩花
亀の子茶屋の常連客や10代・20代の若いお客を呼び込むため、本学学生がメニューを提案し提供を行いました。亀川の地域の方と交流することが出来た。

9 別府の温泉文化を取り入れた新しいスタイルの温泉場
(研究者) 牟田 吉来
温泉コンシエージュで学んだ別府の温泉と温泉のエネルギーを使った発電をまとめ、このような文化を多くの人に知ってもらい地元の産業を活性化させることを目的とする。

10 歴史と和菓子
(研究者) 山口菜々美・白川 聖
鶴見七湯巡りに出てくる軽羹、椿餅のレシピの再現と簡易化をしてそれらを基に当時のお菓子の価値と歴史について研究、考察をした。

11 幼児の食育についての効果とレシピ考案
(研究者) 米加田歩楓・森田 優香
幼児の手づかみ食育について調べた所、身体的・感覚的な発達のために、食事自立性などに貢献すると分かった。そこで幼児が掴んで食べやすい、保護者の方々が気軽に作れるレシピの考案をした。

12 大分県特産カボスのSDGsを考える
(研究者) 若林 絵里・佐藤 駿多
カボス以外でも手軽にカボスの風味を味わえるカボス果皮粉末の活用方法を考案した。

1 別府における病児保育の現状の調査
(研究者) 城野由芽・坂元 美月
高野 愛利・高柳 響歌
病児保育室は保護者負担を減らすためにあるが、利用推進のために別府市内の保護者の意見を集めることは難しいか、本研究にてアプローチした。

2 園内事故の原因と安全対策について
(研究者) 小川 樺穂・高瀬 汐里
藤田 菜奈未・矢守 亜湖
渡邊 穂乃花
本研究では、子どもたちの身体的な発達の特徴や表現手段の方法を分析、比較し、発達年齢によるリスクの違いや事故原因との関連性について考察、園での取り組みを調査した。

3 事例から読み解くネグレクトの要因について
(研究者) 杉本 有紀・田口 詩音
仲西 柊人・日高 彩星
幸 小友美・大城 貴華
18歳未満の子どもの対応するネグレクトについて、報道記事や文献を中心に事例研究を行った。本研究を通して、保護者として何が出来るのかを考察した。

4 絵本の制作活動を通して
(研究者) 首藤 里徳・久嶋 柚稀
戸高 美潮
子どもたちが絵本に夢中になる姿はとても印象的である。絵本の魅力や教育効果について考察するとともに実際に絵本を作ってみることで、絵本の魅力を研究することにした。

5 保育者の主観によるコロナ前後の子どもの行動変容について
(研究者) 片島 歩・阿部 祐奈
甲斐 小雪・松金 薫乃
大人にとっても未曾有の経験であったコロナの影響により、子ども達も様々な制限を受けた。コロナ前後で行動に変化があったか、保育者の5領域を中心に質問用紙を作成し調査を行った。

6 保育現場における児童文化財の活用
(研究者) 佐藤 梨奈・安達瑠衣菜
大澤 優菜・桃崎 瑞希
児童文化財について有無についての調査をし、今後、保育を実践する上で手がかりを見つめるため、考察分析をした。

7 別府市内の保育所等における外国人にルーツを持つ子どもの困難やニーズに関する調査
(研究者) 安部 良太・阿南 来夢
藤田 優菜
別府市内の保育所等に通う外国人にルーツを持つ子どもの困難やニーズについて調査をしたところ、困りはないと回答した世帯が75%を占め、園における充実した支援が示唆された。

8 幼児が好むコマづくり
(研究者) 尾崎 果純・鶴 祐里
戸高 美潮・三浦 凛夏
実習体験から幼児が好むコマについて興味もち、コマの歴史を調べ、就学後の学びにつながる遊びとして身近なものでコマを作成し、考察しながらコマの魅力について研究した。

【介護福祉学科】
1 日本と東南アジア(ネパール、ミャンマー)の高齢住宅の現状について
(研究者) 森崎 美恵・矢須田圭柱
シムバドム・イジン・ミヤンマー(日本、ネパール、ミャンマー)は地理位置によって生活習慣や風習も違う。各国の住家はどうか?高齢者住宅はバリアフリー化しているか?国の支援政策があるかなどについて調査した。

2 車いすの現状と課題
(研究者) 甲斐龍之介・大鷹 聖司
オウレイ・アウン・藤本 幸菜
2014年「別府市障害者ある人

3 障害のある方の就労について
(研究者) 大瀧 凛・後藤 太陽
アキラ・アキラ・アキラ・アキラ
私は実習やボランティア先の障害児(者)施設に行った。障害を持つ方の将来を見据えて、就労方法と種類について調べて、各国で全く違う考えがあり、様々な施設やサポートを学んだ。

4 アニマルセラピーについて
(研究者) 森 隼矢・ミョー・アウン
グレン・アウン・アウン・アウン
私たちは実習先やボランティア先で犬や猫、観賞魚など小動物を飼っている施設に出会った。そこで動物たちが介護や福祉の中で人に関わり治療を行うアニマルセラピーについて興味をもち調査を行った。

5 移動用リフトについて
(研究者) 佐藤 菜々・古賀 星晃
王 映雪・シニア・スワル
私たちは特別養護老人ホームや病院の実習に行った際、移動用リフトでの介助を体験した。主にベッドから車いすへの移乗や身体を持ち上げて移動する目的で使われることを知った。移動用リフトの種類や現状について調べた。

【ライフデザイン総合学科】
医療事務コース
1 間歇性外斜視について
(研究者) 佐藤 奈緒・平本みか
外斜視とは右眼が左眼より外に視線が外側に向かっている状態を指す。そして間歇性外斜視とは、外斜視の状態を併せ持つ外斜視である。治療法の特徴、治療法のメリットとデメリットなどを踏まえ、さまざまな患者に合う治療法を提案する。

2 白内障と緑内障の違い
(研究者) 二野瀬愛美・正田 紗季
白内障と緑内障について、症状、原因、治療法を調べることにした。研究を進めていくうちに最新の治療法では、合併症や手術後の痛みが減少し、手術中や手術後の痛みが53%に期待できることが分かった。

3 チック症とは
(研究者) 甲斐 隼馬・宮本 優花
チック症は、瞬きや咳払い、首振りや奇声が本人の意思に関係なく繰り返して出してしまう疾患である。チック症に効果があると思われるハピクトリバーサルトレーニングやリラクゼーション法などを知り理解することが最も重要だと考える。

4 アニマルセラピーについて
(研究者) 森 隼矢・ミョー・アウン
グレン・アウン・アウン・アウン
私たちは実習先やボランティア先で犬や猫、観賞魚など小動物を飼っている施設に出会った。そこで動物たちが介護や福祉の中で人に関わり治療を行うアニマルセラピーについて興味をもち調査を行った。

5 移動用リフトについて
(研究者) 佐藤 菜々・古賀 星晃
王 映雪・シニア・スワル
私たちは特別養護老人ホームや病院の実習に行った際、移動用リフトでの介助を体験した。主にベッドから車いすへの移乗や身体を持ち上げて移動する目的で使われることを知った。移動用リフトの種類や現状について調べた。

【ライフデザイン総合学科】
医療事務コース
1 間歇性外斜視について
(研究者) 佐藤 奈緒・平本みか
外斜視とは右眼が左眼より外に視線が外側に向かっている状態を指す。そして間歇性外斜視とは、外斜視の状態を併せ持つ外斜視である。治療法の特徴、治療法のメリットとデメリットなどを踏まえ、さまざまな患者に合う治療法を提案する。

2 白内障と緑内障の違い
(研究者) 二野瀬愛美・正田 紗季
白内障と緑内障について、症状、原因、治療法を調べることにした。研究を進めていくうちに最新の治療法では、合併症や手術後の痛みが減少し、手術中や手術後の痛みが53%に期待できることが分かった。

3 チック症とは
(研究者) 甲斐 隼馬・宮本 優花
チック症は、瞬きや咳払い、首振りや奇声が本人の意思に関係なく繰り返して出してしまう疾患である。チック症に効果があると思われるハピクトリバーサルトレーニングやリラクゼーション法などを知り理解することが最も重要だと考える。

4 アニマルセラピーについて
(研究者) 森 隼矢・ミョー・アウン
グレン・アウン・アウン・アウン
私たちは実習先やボランティア先で犬や猫、観賞魚など小動物を飼っている施設に出会った。そこで動物たちが介護や福祉の中で人に関わり治療を行うアニマルセラピーについて興味をもち調査を行った。

5 移動用リフトについて
(研究者) 佐藤 菜々・古賀 星晃
王 映雪・シニア・スワル
私たちは特別養護老人ホームや病院の実習に行った際、移動用リフトでの介助を体験した。主にベッドから車いすへの移乗や身体を持ち上げて移動する目的で使われることを知った。移動用リフトの種類や現状について調べた。

【ライフデザイン総合学科】
医療事務コース
1 間歇性外斜視について
(研究者) 佐藤 奈緒・平本みか
外斜視とは右眼が左眼より外に視線が外側に向かっている状態を指す。そして間歇性外斜視とは、外斜視の状態を併せ持つ外斜視である。治療法の特徴、治療法のメリットとデメリットなどを踏まえ、さまざまな患者に合う治療法を提案する。

2 白内障と緑内障の違い
(研究者) 二野瀬愛美・正田 紗季
白内障と緑内障について、症状、原因、治療法を調べることにした。研究を進めていくうちに最新の治療法では、合併症や手術後の痛みが減少し、手術中や手術後の痛みが53%に期待できることが分かった。

3 チック症とは
(研究者) 甲斐 隼馬・宮本 優花
チック症は、瞬きや咳払い、首振りや奇声が本人の意思に関係なく繰り返して出してしまう疾患である。チック症に効果があると思われるハピクトリバーサルトレーニングやリラクゼーション法などを知り理解することが最も重要だと考える。

4 アニマルセラピーについて
(研究者) 森 隼矢・ミョー・アウン
グレン・アウン・アウン・アウン
私たちは実習先やボランティア先で犬や猫、観賞魚など小動物を飼っている施設に出会った。そこで動物たちが介護や福祉の中で人に関わり治療を行うアニマルセラピーについて興味をもち調査を行った。

幼児教育学科 学外研修

2023年9月28日(木)

場所：福岡おもちゃ美術館
福岡アンパンマンこどもミュージアム in モール

幼児教育学科では、福岡市にある「福岡おもちゃ美術館」、「福岡アンパンマンこどもミュージアム in モール」にて日帰りの学外研修を行いました。

福岡おもちゃ美術館では、スタッフの方から伝承遊びやおもちゃの文化、国内外の様々なおもちゃについてレクチャーを受けました。館内のおもちゃは自由に使うことができ、おもちゃの手作りにも挑戦。遊びについてたくさん発見がありました。

福岡アンパンマンこどもミュージアム in モールでは、館内遊具やパネルシアター、ステージパフォーマンス観覧などを通して、アンパンマンの世界を体験しました。また、スタッフの方へ質問時間があり、現場での工夫を伺いながら、楽しませることの楽しさ・そのための準備の大切さについて学ぶことができました。



介護福祉学科 学外研修

2023年10月13日(金)

場所：福岡博多座

令和5年度介護福祉学科・学外研修として、福岡博多座にて宝塚歌劇団星組公演「ME END MY GIRL」を鑑賞しました。ロンドンが舞台となっており、下町の青年が一人前の紳士となる為に奮闘する姿を、恋物語と絡めて描かれていました。

宝塚歌劇団という日本の代表的な歌劇団の舞台を鑑賞でき、目標に向かって困難なことに立ち向かっていく大切さや、老若男女問わずに生きる表現方法のスキルを、学生たちは学べたのではないかと思います。



第24回 ライフデザイン総合学科 グラフィックデザインコース 卒業制作・学生作品展 2024

ライフデザイン総合学科グラフィックデザインコース1、2年生による「第24回グラフィックデザインコース卒業制作・学生作品展2024」が、令和6年2月15日(木)～2月19日(月)の日程で、大分市アートプラザアートホールを会場に開催された。グラフィックデザインコースでは、グラフィックデザイナー、DTPデザイナー、Webデザイナーを目指す学生が、

デザイン、DTP、Web、クロスメディアデザイン、写真、素描、工芸等の様々な体験学習を通して印刷、出版、広告業界で必要とされるデザインセンスや知識、技術の習得を行っている。今回の展示では、CGに優れたMacを使って制作したコンピュータグラフィックス作品(DTPデザイン)、写真、絵画、素描、基礎デザイン、イラスト、卒業生作品など約200点が展示された。作品には学生それぞれの個性が出ており、500名近くの方々に関心をもって鑑賞していただくことが出来た。今回でグラフィックデザインコースとしての学生作品展は24回目となり、回を重ねるごとに出品点数も増え内容も充実してきている。学生も含めてよい経験となった。今後も学生、卒業生の作品発表の場として、さらに充実させていきたい。



第8回 イラストデザインコンテスト

ライフデザイン総合学科グラフィックデザインコースでは、情報時代を生きるためのデザインスキルやクリエイターをめざします。その一環として、豊かで柔軟な発想でオリジナルのイラストを募集しました。第8回のイラストコンテストには、多くの高校生、学生から応募があり、素晴らしい感性にあふれた作品が集まりました。受賞者は次の通りです。

最優秀賞

小形 右京さん

(大分県立情報科学高等学校2年)

優秀賞

伊東 翠月さん

(大分県立情報科学高等学校3年)

田森 菜花さん

(大分県立情報科学高等学校1年)

工藤 恋さん

(別府溝部学園短期大学1年)



入賞

平川 歌恋さん「カズデックワールド」
(大分県立芸術緑丘高等学校3年)
川邊 奈子さん「雪空と仮想空間」
(大分県立鶴崎工業高等学校2年)
小野 愛美さん「アバター」
(大分県立鶴崎工業高等学校2年)
後藤 佑菜さん「新しい世界にようこそ」
(大分県立鶴崎工業高等学校2年)
佐藤 優菜さん「パステルデール」
(別府溝部学園短期大学1年)

JR別府駅構内 観光ポスター作品展示

2023年3月27日(月)～4月13日(木) JR別府駅構内

毎年4月初旬の「別府八湯温泉まつり」の一環で、学生が作成した、別府を観光客の方々にアピールするポスターなどの作品をJR別府駅構内で展示していた。今年度は少しずつ元の形に戻りはしつつもコロナ禍によりやや縮小した形で「別府八湯温泉まつり」は開催され、JR別府駅構内での本学学生による作品展示を引き続き行なうことができた。

別府の主要な観光名所の写真やイラスト、キャッチコピーなどを組み合わせ、学生が各々の視点と想いで、学生らしい趣向を凝らしたポスター作品や、段ボールを使用したフレームに学生各々が自由に表現したグラフィックアートを貼り付けた灯籠などを制作した。

期間中は、子どもからご年配の方まで、多くの方が作品の前で足を止めて下さり、学生の想いがこもった作品を、思い出しのひととして楽しんでいただいていた。



第16回 わが校自慢コンクール

本学の「ライフデザイン総合学科」のなかにはデザインや写真等、実技を通して自分だけの作品を創造したり、専門ソフトを使用してデジタル技術を修得するコースがあります。そこで図書館では「わが校自慢コンクール」を実施し、自らの学校の特徴的な活動の様子、ユニークな友人、先生の紹介、校内の美しい風景などの楽しい作品が多く寄せられています。

最優秀賞

石井 咲来さん「青天白日」

(大分県立鶴崎工業高等学校2年)

優秀賞

神田 愛海さん「図書館」

(大分県立三重総合高等学校3年)

平川 歌恋さん「放課後の木炭素描室」

(大分県立芸術緑丘高等学校3年)

松尾 渚沙さん「なんて書いてるのかな?」

(大分県立鶴崎工業高等学校2年)

佳作

岡内 琉生さん「ITの学び舎」

(福徳学院高等学校3年)

都 ほかさん「最上階からの一望」

(大分県立爽風館高等学校4年)

森 あゆみさん「部活動の勳章」

(明豊高等学校3年)

緒方 美月さん「夢中になるとき」

(大分県立情報科学高等学校2年)

西嶋 羅良さん「誰でも美脚作業着」

(大分県立鶴崎工業高等学校1年)



MIZOBE 食の継承運動&魚食普及事業 第26回お魚さばき講座

2024年2月10日(土) 場所：85年館 調理室・試食室



大分県内の魚食普及を目的とした佐伯市蒲江漁業青年部連絡協議会と別府溝部学園短期大学食物栄養学科との共催「お魚さばき講座」を本年も開催した。今回は、大分県地域での食育の推進補助事業の一つで食物栄養学科が取り組んできたMIZOBE食の継承運動として、若い人たちに魚食ならびに伝統料理を伝える活動と位置づけ、本学学生22名(留学生含む)のみではなく、小学生の親子を含む一般の方(10名)の参加も募った。佐伯市蒲江漁業青年部からは15名が来学し、交流を深めた。

参加者は、漁業青年部の、かぼすヒラメ・美人鯛・鯛を捌くデモンストラーションを見学した後、各調理台で魚の五枚下ろしに挑戦した。その後、刺身盛合せ、りゅうきゅう、鯛のホイル焼き・ブリ湯煮カルパッチョ風・魚アラの味噌汁・五品の調理を行った。

大きなブリを捌いた学生は「大きな魚を捌くのは初めてで、難しかった。もっとうまくやりたい。」、試食した学生は「ブリの刺身は脂がのって美味しかった。どの料理もおいしくできて良かった。これから生魚を食べたい。」、留学生は「初めて大きい魚を触り、初めて生の魚を食べた。楽しくおいしく料理を味わうことができた。良い思い出になった。」との感想を述べた。また、CTBテレビ、今日新聞の取材を受け、本学の活動を広くアピールした。

キャンパスに咲いた若人の記録

年間行事 Campus schedule

春学期



就職ガイダンス



第18回読書感想文コンクール
春学期定期試験
幼児教育学科保育園実習(2年次生)



幼児教育学科幼稚園実習
食栄学外研修、幼教学外研修



介護福祉学科ふくし・ふれ愛ひろば
就職ガイダンス
食物栄養学科食のフェスタ



春学期開講
入学式
オリエンテーション



姫山祭(学園祭)



ライフデザイン総合学科科学外実習
食物栄養学科医療秘書実務実習
食物栄養学科給食実習
幼児教育学科保育園・施設実習(2年次生)
介護福祉学科介護実習(2年次生)

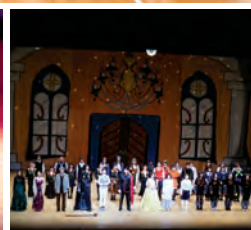


秋学期

秋学期開講
顕徳式
スポーツ大会



幼児教育学科
ミュージックカーニバル
(ホルトホール・ビーコンプラザ)
防災訓練



姫山会役員選挙
食物栄養学科卒業研究発表会
幼児教育学科卒業研究発表会
介護福祉学科卒業研究発表会
就職ガイダンス
ライフデザイン総合学科
医療事務コース卒業研究発表会



ライフデザイン総合学科ファッション
ブライダルコースファッションショー
ライフデザイン総合学科グラフィック
デザインコース卒業制作・学生作品展
幼児教育学科基礎実習(1年次生)



卒業式

あ
と
が
き

本校は今年学園創立78周年を迎えこれまでご支援・ご協力をいただいた方々に感謝し、新たな一歩を歩んできた。今年は、新型コロナウイルスの感染拡大による人々の交流が久しぶりに活発になった年であった。しかし、海外では戦争、軍事衝突が続く。世界は平和が不安定になっている。国内でも、元日に能登半島地震が起き甚大な被害が出て一日も早い復旧がもたれる今日である。被害に遭われた皆様に心よりのお見舞いを申し上げます。

卒業生のみならずには、本学で取得した資格、知識、技術を用いて一歩一歩進んでほしい。本学での2年間を糧にさらなる飛躍を願う。

発行 別府溝部学園短期大学
大分県別府市亀川中央町
電話 0977-66-0334
電 0977-66-0334
写真 コーポレート
印刷 株式会社印刷センター